



コレクション展 2018 - 秋冬



1. 野長瀬晩花《夕日に帰る漁夫 下絵》1920 (大正9) / 木炭、顔料、紙

和歌山ゆかりの作家たち

2018.10.30 (火) ▶ 12.24 (月・祝)

特集
国展の版画



2. 川西英《曲馬マーチ》1928 (昭和3) / 木版、紙

掲載用画像については広報担当にお問合せ下さい。

※文字のせ、トリミング等のご遠慮ください。

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

コレクション展 2018 - 秋冬 和歌山ゆかりの作家たち

2018年10月30日(火) ~ 12月24日(月・祝)

和歌山県立近代美術館のコレクション展では、日本画、洋画、彫刻、版画など、総数1万点を超える所蔵品を通じて幅広い美術の表現に接していただけるよう、季節ごとに展示を替え、特集コーナーも設けながら作品紹介を続けています。

今回は、同時期に開催する特別展「創立100周年記念 国画創作協会の全貌展」にあわせ、国画創作協会展覧会(国展)に版画作品を出品した作家たちを特集します。日本画家たちによって発足した同会は、後に洋画や工芸、彫刻を含む部門を設立しますが、それに先立って版画は、日本画と同じ部門内での出品が許されていました。日本画のみならず、版画でも試みられた新しい表現への挑戦を、当館の豊かな版画コレクションからご覧いただきます。

また国画創作協会が活動した大正から昭和にかけての洋画とともに、同会が解散した後の美術を、和歌山ゆかりの作家を中心に幅広くご紹介します。

展示の最後には、国内の美術館では所蔵が数少ない貴重なクリフォード・スタイルとマーク・ロスコ、そしてニューヨークで彼らと出会い自らの表現を切り拓くこととなった岡田謙三の作品にスポットを当てます。同時代、同じ場所で活躍した三者の作品には色彩の豊かさと柔らかな形態が共通していますが、しかしそれぞれに際立つ個性が認められることでしょう。このコーナー展示は、改修工事を予定している滋賀県立近代美術館からお預かりした作品と当館のコレクションによるものです。



3. 木下孝則《女優の像》1926 (大正15/昭和元)
油彩、キャンバス



6. 田中恭吉《バラの刺》1914 (大正3)
油彩、キャンバス

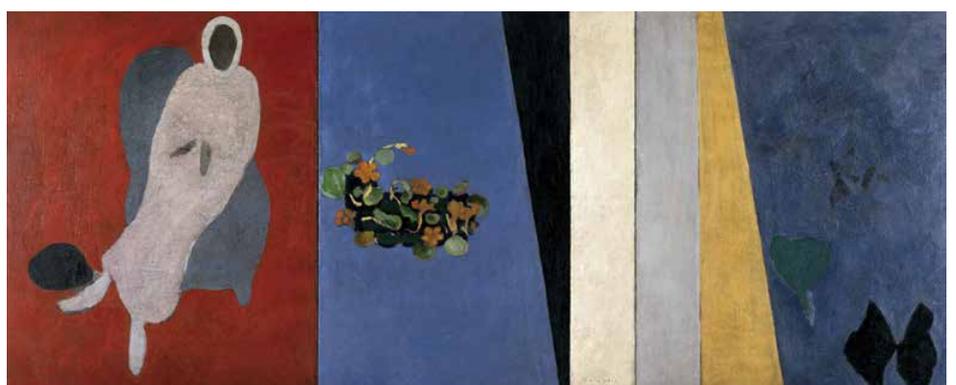


4. 野長瀬晩花《[秋の頃]》1917 (大正6) 頃 / 顔料、紙

5. 日高昌克《草》1923 (大正12) / 顔料、絹



7. 須田国太郎《風景》1950 (昭和25) 頃
油彩、キャンバス



8. 村井正誠《アラブの窓》1929 (昭和4) / 油彩、キャンバス



特集 国展の版画

同時期開催の特別展「創立100周年記念 国画創作協会の全貌展」にあわせ、国画創作協会展覧会（国展）に版画作品を出品した作家たちを特集します。同会は日本画家たちによって始められた公募展団体であったため、これまで展覧会での紹介はまず日本画作品が中心となっています。しかしながら、1924（大正13）年の第4回展からは正式に版画と素描の出品を受け付けるようになり、翌1925（大正14）年には洋画部門となる第二部を新設、第6回展では工芸と彫刻作品の特別展示も行い、第7回展からは第二部で工芸と彫刻の受け付けを始めました。国展は、回を重ねるにつれ、多様な作品発表の場となっていったと言えます。



10. 平川清蔵『平川清蔵版画集』
第1輯 マンドリンを弾く少女
1926（昭和元）/木版、紙

なかでも版画の出品は、第二部として洋画が扱われるようになって以降も、日本画と同じ第一部で受け付けられていました。その区別の理由はわかりませんが、紙と水性絵具を用いた材料の特性に日本画との共通性が見いだされたのか、あるいは西洋美術が日本に流入する以前から存在していた技法であると位置づけられたのかもしれませんが、いずれにせよ、国展において版画は、日本画と同じ分野で扱うべき表現技法として受け止められていました。

当時の出品目録を辿ると、入選回数と出品数の多さから、ひらつかうんいち平塚運一とかわかみすみお川上澄生が国展の版画の中心作家であったと言えます。さらに彼ら以外にも、かわにしひで川西英やあせち畦地梅太郎ら、昭和の版画界を牽引した作家たちが、その仕事の最初期に国展を発表の場としていました。あわせて8人の作家による版画の出品が確認できますが、この特集展示では、そのうちの7人に加え、国展には日本画を出品していたとくりきとみきちろう徳力富吉郎となかがわいさく中川伊作の版画作品を、当館が誇る版画コレクションからご紹介します。大正から昭和にかけて広がった新しい時代の雰囲気や、日本画と同様、木版画でも新たな表現の創造を試みた彼らのみずみずしい作品をご覧ください。

9. 亀井玄兵衛『黒い家の風景』1928（昭和3）/木版、紙



開催概要

- 会場 和歌山県立近代美術館 2階展示室
会期 2018年10月30日（火）～12月24日（月・祝）
開館時間 9時30分～17時（入場は16時30分まで）
休館日 月曜日（ただし、12月24日は開館）
観覧料 一般340（270）円、大学生230（180）円（）内は20名以上の団体料金
* 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料
* 11月22日（木）は「和歌山県ふるさと誕生日」として入場無料
* 毎月第4土曜日は「紀陽文化財団の日」として大学生無料（11月24日、12月22日）

関連事業

● ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説）

【日時】12月2日（日）、12月16日（日） 14時から 2階展示室にて（申込不要、要観覧券）

【同時期開催】

特別展 創立100周年記念 国画創作協会の全貌展

【会期】11月3日（土）～12月16日（日）

【会場】1階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：青木 広報担当：島

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690（代表）

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>